

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

世の中について知ったふうなことを言ったりする14歳前後に目立つ言動を揶揄して「中二病」と呼ぶのだが、情報番組などで発言す

る芸能人などの発言が気になる機会が多くなってきた。

これまでの情報発信システムの削減は急速に進むだろう。

詩人の長田弘さんの

ジュリアス・シー

「言葉のダシのと리카の一遍に「かつおぶしじゃない、まず言葉をえらぶ、太くてよく乾いた言葉をえらぶ。それから透き通るまで言葉を削る。鍋でグツグツさせる。アクをすくう。言葉の澄んだ奥行きだけがのこるだろう、それが言葉の一番ダシだ」と。高齢化社会に向けて、情報を届ける手段は激変するに違いない。情報社会でのデジタル化が急速に進んでいる。またテレビ・ラジオ局など

ザーの言葉に「多くの人は、見たいと欲する現実しか見えていない」つまり言い換えれば「自分にとって都合の良い情報はかりを無意識に集めてしまう」と。インターネットによる膨大な情報の中で、知るべき情報を意識して選択する日々を過ごすべきなのだろう。

になって、最近普及している多言語自動翻訳システムをさまざまに場面で見ることが多くなってきた。だがお互いが理解し合える意思疎通には不安もある。漫画家の藤子・F・不二雄さんの

の人口移動報告で、東京部の転入者が転出者を対前年80%増加したと公表の時期の国会に、国土交通省は、都市と地方の双方に生活拠点を持つ「二地域居住」の推進に向け新制度を盛り込んだ関連法

自分に都合の良い情報に頼ってはいけない

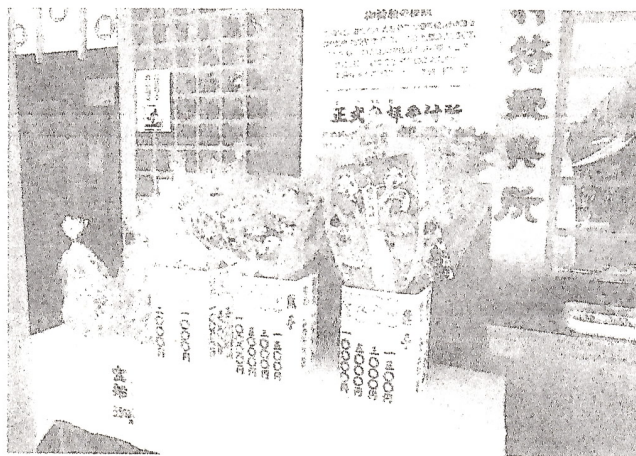
「ドラえもん」で登場した道具「ほんやくコンニャク」は、食べればどんな相手とも言葉で通じるようになる。表現してほしい道具をマンガにした作者に驚くばかりだ。

改正案を提出したこの情報。都市に住む人が

外国からのお客様が急増して語学力の無い事に悔やむことが多く

「二地域居住」を始めやすくなるよう、計画を作成して住居や職場環境を整備する自治体への財政支援が柱だ。メリットの一例として「美しい景観の中、自然に根ざした暮らしができる」都会では難

しい、庭や畑のある広い家に住める「人材不足の解消」「遊休農地の解消」などだ。誘致に大北地域の多くの人が関心を抱くに違いない。どんな地域に行くのか問われている。



1月下旬、穂高神社の縁起物（熊手・破魔矢など）に経済好転への期待が伝わってくる

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）